

■島津斉彬 薩摩藩主。開明的な名君の誉れ高く、次々と殖産興業に着手して、幕閣からも期待されたが、急逝した。

しまづなりあきら

浮世風呂・・・1809＝ 薩摩江戸藩邸で、 島津斉興の長子に生まれる。

世子時代から英明をうたわれる。

水野忠成老中1818＝ 9歳：

シボム 山鳴滝塾1824＝15歳：母病死。将軍家斉にお目見え。

・・・・・・1826＝17歳：徳川英姫と結婚。

日本外史・・・1827＝18歳：

滑稽+人情本 1835＝26歳： 鹿児島へ初めての帰国。

・・・・・・1836＝27歳：

大塩平八郎乱1837＝28歳：

阿部正弘首座1845＝36歳：*この頃より、戸塚静海、高野長英をはじめ当時一流の洋学者に洋書の翻訳や講説をさせ、また徳川斉昭、松平慶永や老中阿部正弘らと親交を結び、その政治的見識を高く買われる。

北斎没・・・1849＝40歳：この年の高崎崩れ＝お由羅騒動を経て、

尊徳報徳論・1851＝42歳：*斉興の隠居により藩を襲封し、正式に鹿児島に入る。ただちに、殖産興業に着手、西洋型帆船・蒸気船の建造、反射炉・鑛開台・溶鉱炉の建設と銃砲・弾薬・地雷・水雷・綿火薬・硫酸・硝酸・塩酸の造兵工業から、ガラス・陶磁器・ハゼ蠟・農具の製造、水車動力利用の洋式紡織など万般にわたり毎日1200人もの従業員を擁する総称“集成館事業”を興した。

ペリー来航・1853＝44歳：

開国開港・・・1854＝45歳：

この間、 将軍家との縁組みも進め、

五ヶ国条約・1858＝49歳：*一橋慶喜の将軍継嗣運動に努めたが、大老井伊直弼のために挫折。鹿児島で兵の訓練中、急死した。(伝染病説から毒殺説へ傾きつつある)